

平成 21 年 6 月 26 日

各 位

上場会社名 株式会社アールテック・ウエノ  
(コード番号：4573 大証ヘラクレス)  
本社所在地 東京都千代田区内幸町一丁目 1 番 7 号  
代 表 者代表取締役社長 真島 行彦  
問 合 せ 先ビジネスマネジメント部 中村 宏司  
電 話 番 号 03 (3596) 8011

代表取締役及び役員の変動に関するお知らせ

当社は、本日開催の定時株主総会及びその後の取締役会における決議をそれぞれ経て、下記のとおり代表取締役及び役員の変動を決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 代表取締役の変動について

(1) 代表取締役の変動内容

新	氏名	旧
代表取締役社長	真島 行彦	専務取締役 兼 メディカルディレクター

(2) 就任日

平成 21 年 6 月 26 日

(3) 変動の理由

当社の更なる成長を目指すべく、代表取締役の変動を含む役員人事を決議し、新たな経営体制へ移行いたします。

今後は、新経営体制のもと、当社ミッションステートメントを達成し、継続的な成長に向けて取り組んでまいります。

(4) 新代表取締役の略歴

生年月日 昭和 28 年 4 月 7 日  
略 歴 平成 9 年 4 月 慶應義塾大学医学部助教授 (眼科学) 就任  
平成 16 年 3 月 当社社外取締役就任  
平成 17 年 3 月 慶應義塾大学退職  
平成 17 年 4 月 当社取締役トランスレーショナルリサーチ推進室長就任  
平成 18 年 4 月 専務取締役研究開発本部長就任  
平成 20 年 7 月 専務取締役メディカルディレクター就任

## 2. 役員の変動について

### (1) 新任取締役

新	氏名	旧
代表取締役社長	真島 行彦	専務取締役 兼 メディカルディレクター
取締役	林 直	—
取締役	本間 伸也	—
取締役会長	久能 祐子	—

※1. 取締役本間伸也氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2. 取締役会長久能祐子氏は、株主提案が承認可決されたことにより、取締役に就任しております。

### (2) 就任日

平成21年6月26日

### (3) 退任取締役

新	氏名	旧
—	井上 修爾	代表取締役会長
—	橋寺 由紀子	代表取締役社長
—	岩崎 俊男	取締役

## 3. 代表取締役社長 真島行彦 からのメッセージ

「医師の目線で医薬品販売・開発を行う分野特化型（眼科・皮膚科）の製薬企業」  
「業績回復のため、収益力を強化し、バランスのとれた成長を目指す」

現在、医薬品業界は医療費削減、薬価引き下げ、2010年問題（大型医薬品の一斉特許切れ）、後発品の普及促進等急激な変革期を迎えており、各製薬会社は生き残りのために、それぞれの方向性を打ち出しています。製薬会社のクラス分けが進む中で、アールテック・ウエノは「医師の目線で医薬品販売・開発を行う分野特化型（眼科・皮膚科）の製薬企業」を目指します。

アールテック・ウエノにおけるこれまでのMedical Director（メディカルディレクター）としての実績、慶應義塾大学医学部助教授時代から現在まで続く最先端の医療現場での経験、および数多くの基礎研究成果を元に、今後は会社のトップとしてMedical Affairs（メディカルアフェアーズ）（注1）の視点から医薬品事業を考え、医療環境や社会環境の急激な変化に迅速に対応して行きます。医薬品販売事業においては、これまで以上に他社には出来ないマーケティング戦略を展開します。医薬品開発においては、医師の目線で医療現場のニーズを正確に反映し、市場にある競合薬との位置付けから開発品の優先度を決定し、本当に臨床現場から求められている薬を総合的かつ迅速に判断し、開発する戦略を展開します。

アールテック・ウエノ創業者の1人である上野隆司博士が世界で初めて開発したプロストン系薬剤であるレスキュラ®点眼液は、日本から世界に発信した緑内障高眼圧症治療薬です。レスキュラ®点眼液をめぐる事業環境は厳しい状態が続くものの、現在、私自らが先頭に立ち指揮している網膜色素変

性（注2）への適応拡大の臨床試験は今期中に試験結果のデータ解析終了を目指し、一方、当社がアメリカ、カナダでの販売権を譲渡したスキャンボ社（注3）が萎縮型加齢黄斑変性（注4）への適応拡大も計画しています。アールテック・ウエノでは Medical Affairs（メディカルアフェアーズ）チームが提携し、この適応拡大をサポートします。今後もレスキュラ®点眼液のライフサイクルマネジメントに力を入れますが、これは現場医療に精通した医師がトップで指揮することで、効果的な戦略を実現することが可能です。レスキュラの優れた薬理作用を元に、治療法が無い領域で、再び世界に向けて患者様の未来にチャレンジして行きます。

（注1） Medical Affairs（メディカルアフェアーズ）について

製薬企業は医師を対象に薬の販売を行っていますが、薬の恩恵を受けるのは患者様です。処方する医師が実際の医療現場で得た経験から、患者様に薬をどのように使用してゆくのかという医療現場のニーズを医師の眼でとらえ、正確に新薬開発やマーケティング戦略に反映し活用することを目的とした機能です。最近の欧米大手製薬企業では、医師らで構成されたメディカルアフェアーズ部の設置が増えて来ています。

（注2） 網膜色素変性について

網膜色素変性は進行性の夜盲、視野狭窄を主な症状とし、症状が強い場合は失明に至ることがある遺伝性の網膜脈絡膜変性疾患です。現在まで、本疾病に対する有効な治療法は確立されていません。視覚障害原因の第3位（60歳以下では1位）であり、重大な失明の原因疾患です。

（注3） スキャンボ社について

上野隆司博士の発明したプロストンテクノロジーに基づき新規医薬品の研究・開発・商業化を行うバイオフィーマシューティカル企業で、上野博士とその共同創業者の久能祐子博士により1996年に米国デラウェア州法人として設立され、米国メリーランド州ベセスダに拠点が置かれています。同社は、その100%出資子会社として、ベセスダに拠点を置く Sucampo Pharma Americas, Inc.、英国オクスフォードとスイス・バーゼルに拠点を置く Sucampo Pharma Europe Ltd.、東京・大阪に拠点を置く株式会社スキャンボファーマをそれぞれ有しております。

（注4） 萎縮型加齢黄斑変性について

欧米ならびに日本でも中途失明の主な原因疾患で、日本では50歳以上では約100人に1人が加齢黄斑変性に罹患しています（疫学調査：久山町スタディー）。アメリカでは現在約200万人の患者様が高度の視力障害を持ち、2020年までには300万人になるとされています。欧米では新生血管を伴わない萎縮型が多く、黄斑部が萎縮することにより高度の視力低下を来します。現在、サプリメント内服が行われていますが、有効な治療薬は開発されていません。

① 株式会社アールテック・ウエノについて

株式会社アールテック・ウエノは1989年9月、医薬品の製造販売、研究開発を目的に設立された製薬ベンチャー企業です。真島行彦医学博士（新代表取締役社長）を中心に「Physician-Oriented New Drug Innovation」（臨床医による新薬開発）をテーマとし、これまで有効な治療薬のない眼科疾患をターゲットに新薬の開発を行っております。

当社の主力製品であるレスキュラ®点眼液は、創業者の上野隆司博士が1980年代に発見した「プロストン」を世界で初めて活用した薬剤として1994年に発売されました。

② 緑内障について

40歳以上では20人に1人が緑内障に罹患して（疫学調査：多治見スタディー）、放置すると視神経障害により視野が欠けて、症状が強い場合は失明に至ることがあります。治療は眼圧を下降させることにより、視神経障害の進行を抑制できます。

③ レスキュラ<sup>®</sup>点眼液について

レスキュラ<sup>®</sup>点眼液は当社の主力製品であり、緑内障・高眼圧症の治療薬として1994年に厚生省（現厚生労働省）より製造販売承認を取得しました。眼局所及び全身性の副作用が少なく、1日2回の投与で安定した眼圧下降作用をもたらし、視神経保護作用と眼血流増加の作用メカニズムによりすぐれた治療効果を発揮します。

当社は2009年4月レスキュラ点眼液について『Sucampo Pharma Americas 社』と米国およびカナダにおける緑内障及び高眼圧症の販売承認及び販売権の譲渡、関連特許のライセンス、並びに同製品の独占的な製造供給についての契約を締結しています。

以上